

ティーチング・ステートメント

所属 未来デザイン学部
メディアデザイン学科
名前 土田 邦彦
作成日 2024年2月日

【責任】 メディアデザイン学科においてコミュニケーション分野を中心に、全学共通教育部を兼担しながら教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は基礎教育科目の英語（科学・環境・時事）の未来デザイン学部の1クラスと、工学部の1クラスを担当。工学部1年の工業英語を1クラス担当。メディアデザイン学科のプレゼンテーションに関する科目の担当、就職支援に関する科目、ゼミ生の研究指導、学生のキャリア支援、修学支援、陸上部の顧問である。

【理念】 自律的な学習者を養成することを第一の目標に、学ぶことへの意欲を高める授業を展開する。学生の目標を明確化し、学習習慣の定着を目指す。社会の変化の激しい現代において、生涯にわたって学び続けることができる人材を育成する。また、環境の変化に対応でき、情報を正しく伝達するための語学力と、日々進歩するICT技術を有効に活用できる能力の育成を目指す。オンラインの活用による離れた、対面でのコミュニケーションを通じて学生の自己肯定感を高める機会を提供する。また、他者と連携するためのコミュニケーション能力を磨き、協働で活動することの重要性を認識させ、社会との繋がりを意識して活躍できる人材を育成する。自身も企業や学外の人々と積極的に交流を行い、社会や学生のニーズに応える教育を実践することを理念としている。

【方針・方法】

上記の「自律的な学習者の養成」「自己肯定感を高める」「コミュニケーション能力の向上」の理念を実現するために、以下の教育活動の方法・方針を取り入れている。

「自律的な学習者の養成」

- 信頼性の高い情報に触れさせることで、好奇心の幅を増やす活動をおこなう。
- 自学自習を含め、自律した学習者になるための訓練をおこなう。
- コミュニケーションの基本である、ルールやマナーを守る。
- 学生個人またはチームでの活動の振り返りを多用することで自らの課題や解決法を発見し、実践することを意識させる。
- 研修旅行やインターンシップへの参加を促すなど、最新のコンテンツや情報に触れる機会を与えている。

「自己肯定感を高める」

- 個性を尊重し、相手の話を丁寧に聞く姿勢を身につけさせる。
- 学生の発言の機会、作業や考える時間を十分に設ける。
- 先延ばしにせず、期限内に完了させるタイムマネージング能力を身につけさせる。グループでの活動を体験させ、役割を意識した発言の機会を設ける。

「コミュニケーション能力の向上」

- 学生の状況を把握するため、些細な声かけをおこない、興味や関心を引きだす。
- グループ間の発表の機会を多く設定し、チーム意識や他者の発言を尊重させる。
- 実践的な活動や、学外の専門家とも連携し、社会との繋がりを意識させる。

- 学外との繋がりを強化する。学生に参加の機会を多く与え、活動を継続させる取り組みを増やす。
- グループ活動の成果については、グループ内、または他グループメンバーとの相互評価の機会を与え、次の課題達成への改善となるように振り返りをさせている。

【成果・評価】自分の実施した教育活動の評価・成果については以下の通りである。

- 公開授業では、高い評価を得ている。
- 授業評価アンケートではおおむね満足していると回答していると思われる。
- オンライン授業への対応はおおむね満足していると回答している。
- 英語の外部試験を受験する学生の増加。
- 学生が2020年のTOEICのL&R、S&Wで“IIBC AWARD OF EXCELLENCE”を取得。
- 学生が企画したプレゼンテーションを学外コンテストに応募し、入賞している。
- 道外へのインターンシップの参加が増えるなど、積極的に行動できる学生が増えている。
- 海外で活躍する卒業生が増えている。
- 英国グリニッジ大学で、修士号を取得した学生による講演を実施した。(2023.11)

【目標】今後の目標は以下の通りである。

- クォーター制、新カリキュラムへの対応。
- eテキスト（新しい教科書）への対応。
- これまで以上に学外の専門家と協力し、学生を指導・評価する授業を企画・運営する。Google formを活用し、学生の活動や創造性を評価する方法論を確立する。
- 確立した評価法等の方法論を学科等で情報共有し、展開する。
- 学外への研修の機会を企画・運営する。
- 全学的な「海外語学研修」の再開を目指し、魅力ある教育プログラムを提供できるようにする。